

4 校長としてのリーダーシップを

1 はじめに

道徳が「特別の教科」になりました。教科化によって子どもたち一人一人の道徳性をさらに育成しようとするものです。そして、自他共に生きる豊かな人生につないでいこうとするものです。小学校は平成30年度、中学校は31年度完全実施に向けて、移行措置も始まっています。それでは、校長として、この改革期を好機ととらえ、どんな視点を大事にして教育課程を改善し、道徳教育を進めていけばよいでしょうか。

2 校長としてのリーダーシップの発揮による、新しい道徳教育の展開

(1) 教育課程の改善、編成

- ア これまでの道徳教育の実施上の課題について、きめ細かに把握する。
教職員、児童生徒、保護者、地域住民へのアンケートの実施、集約
- イ これからの道徳教育（道徳科）に期待することや願いについて把握する。
教職員、児童生徒、保護者、地域住民へのアンケートの実施、集約
- ウ 学校の実態や道徳科の目標を踏まえた学校教育目標を設定し、教育課程を編成する。
- エ 現在の学校の道徳教育の目標、内容、体制等を見直し、道徳教育の目標を明確にする。

(2) 道徳の「特別の教科」化に向けての校内研修の実施

- ア 教科化の趣旨、目的、新学習指導要領改善のポイント等の共通理解を図る。
- イ 「特別の教科」道徳科の授業像について実践を通して探り、基本的な指導過程を確立する。
- ウ 道徳の教科書の取り扱いと評価について共通理解を徹底する。

(3) 「特別な教科」道徳科についての広報啓発

- ア 先生方へ・・・毎週、意図的、計画的、累積的に道徳科の授業を実施、評価
 - ・ 校長は全ての学級の道徳授業を参観する。
- イ 保護者へ・・・学校で行う道徳科の授業のイメージをPTA総会や学校便り等で周知
 - ・ 日曜参観時等に全校で道徳科の授業参観を計画し、保護者の授業参観や参加を計画する。
- ウ 地域へ・・・あらゆる機会に、道徳科への移行やその趣旨、考え方等について説明する。
 - ・ 教育県民週間に、地域の方々への授業参観の公開や道徳フォーラム等を計画する。

3 小学校の取組

一部改正学習指導要領の改善点の共通理解、共通実践

- 指導の重点の理解（自立心、自律性、生命を尊重する心や他者を思いやる心の育成）
- 学年発達を考慮した指導の重点
 - ・ 低学年・・・挨拶などの基本的な生活習慣、善悪の判断、社会生活上のきまり等
 - ・ 中学年・・・善悪の判断と実行、身近な人々との協力・助け合い、集団や社会のきまり等
 - ・ 高学年・・・相互理解と支え合い、法やきまりの理解と遵守、集団生活の充実、伝統と文化の尊重、我が国と郷土への愛、他国の尊重等
- いじめ防止や安全の確保につながる道徳的体験や授業の充実
- 家庭や地域社会との共通理解の深化と相互の連携

4 中学校の取組

一部改正学習指導要領の改善点の共通理解、共通実践

- 生徒の発達の段階を踏まえた指導の重点の理解（自立心、自律性、規律ある生活、生命を尊重する心や自らの弱さの克服、気高い生き方、法やきまりの意義理解、社会形成への参画意識意欲と態度、伝統と文化の尊重、我が国と郷土を愛する心の育成と他国の尊重、国際社会に生きる日本人としての自覚等）
- 現代的な課題や社会的な課題の取り扱いと解決への取組（情報モラル等）
- 職場体験活動やボランティア活動といじめ防止や安全の確保につながる道徳授業の充実
- 家庭や地域社会との共通理解の深化と相互の連携

（鹿児島市立西田小学校 校長 日高 孝・鹿児島市立武中学校 校長 堀 正信）